

## 南米のポピュリズムとアルゼンチンペソ

最近では地政学的リスクが恒常的になり、それぞれのリスクに対する市場の関心もかつて程はない。と言うよりリスクが伝播する可能性より地域内で封じ込まれるケースが多くなったためと見ることもできる。

南米が揺れている。南米もだろう。アルゼンチンでは左翼ポピュリスト政権が復活する。ボリビアでは左翼反米主義の大統領が四選を果たした。チリではデモが激化し中道右派政権の内閣が崩壊した。

中でも市場的にはアルゼンチンが興味深い。アルゼンチンは今回選挙に敗れたマクリ政権の時にIMFから570億ドルの支援を受けた。IMF最大の支援であり、海外の投資家も投資を増やした。市場重視の政権に世界は好意的だった。しかしマクリ政権は経済立て直しに失敗した。インフレ率は50%以上、失業率は10%以上、貧困率は上昇し、通貨安が続いた。

今年8月の予備選で現政権は野党候補に大差をつけられ、10月の今回の本選では差は縮小したものの敗れた。野党候補は大衆迎合の政策で市場軽視だ。現大統領の前の大統領が副大統領候補になり、大統領候補には彼女の政権時の内閣官房長官を据えた。

アルゼンチンペソは8月の予備選の結果、30%ほど急落した。その後は若干戻したが、本選の結果を受けて直近では1ドル60ペソ水準で推移している。3か月前に急落したのと同水準だ。

債券も暴落した。アルゼンチンの政府債務は1000億ドル以上ある。このうち外国の投資家が500億ドルを所有している。中には大きな含み損を抱えた著名なファンドもある。

アルゼンチンは現在、デフォルトの瀬戸際にある。びっくりするような話だが、そうでもない。これまで8回もデフォルトを経験しているからだ。人々は国内銀行やペソを信じていない。これまで預金封鎖や通貨切り下げで痛い目にあっているので、ドル預金や海外の金融機関への預金などの対策は怠りないからだ。もっともこれはある程度の資産のある人々のことだ。

ヘッジファンドも今後の債務再編交渉などを通じてロスのかかなりの部分は取り返せると踏んでいる。下落した債券を買って裁判まで持ち込み利益を狙うヘッジファンドもいる。

新政権はIMFが支援の代わりに求めた緊縮財政の変更を要求するが、大幅な財政支出を選挙公約に挙げた新政権とIMFとの交渉は難航必至だ。大幅に下落したペソだが、底はまだ見えない。